
絶対可憐チルドレン × とある魔術の禁書目録

メテオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

絶対可憐チルドレン×とある魔術の禁書目録

【Nコード】

N2699W

【作者名】

メテオ

【あらすじ】

ザ・チルドレンの任務中に出来た亀裂に入ってしまい、とあるの世界に来てしまったチルドレンとさかき
そんな5人が繰り広げる小説です

作者は初心者です

アドバイス等色々受け付けております

プロローグ（前書き）

やってしまった。もう1つ小説を抱えてるのに・・・
これも駄文ですが・・・

プロローグ

「おお、皆本君きたか」

「はい、局長。で、用件とは何でしょう？」

「まあこれを見てください」

「これは・・・重力異常の発生ですね」

「そうだ。これの調査をチルドレンと賢木君で調査に行ってくださいな
いか？」

「わかりました。賢木を呼んで直ぐに行ってきます」

ブルルルル「なんだ？皆本」

「任務だ。チルドレンと皆本で重力異常の調査に行く」

「わかった。30分後にバベルの入り口付近で頼む」

「了解」

「おい。薫、葵、紫穂。任務だ。30分後にバベルの入り口付近
に来てくれ」

「・・・分かった・・・」

「で、皆元々どんな任務？」

「重力異常の調査だ」

「他には？えつとあ、きたきた。遅いぞ賢木」

「仕方ねえだろ。こっちにも色々あるんだ」

「はあ。まあいいや、行くぞ」

こうして、ヘリコプターに乗り込んだ

《ヘリコプターの中》

「よし。ザ・チルドレン解禁」

「よっしゃあ行くぞ」

「ふう〜着いた〜」

「え〜つと場所は・・・この辺だな」

「よっしゃ！行くよ」

《外に出た》

「な・・・何だあれ」

そういつてみると空間に亀裂があつた

「おいおい、あれに飲み込まれたらやばいぞ」

「仕方ない。離脱す「うわああ」」

こうして亀裂に飲み込まれた

「キャーーーーー」

そういつていると、どこか分からないがどこかの上空にいた

「薰！サイコキネシスだ」

「分かつてる」

そうして、何とか無事に着地できた

サイレンの音が聞こえてきた「アンチスキルじゃん。どうしてこの上空にきて落ちてきたか説明するじゃん。後身分証明書とかあつたら出すじゃん」

「わかりました。これが身分証明書です」

「え〜つとなになに？内務省特務機関超能力支援研究局所属ザ・チルドレン現場運用主任皆本 光一・・・」

「とりあえずわかつたじゃん。でも内務省特務機関超能力支援研究局つてなにじゃん？」

「え？バベルのことですよ？」

「バベルつて何じゃん？」

「えっと本気で言ってます？」

「本気じゃん」

「・・・ひよつとすると僕たちは異世界から来たのかもしれませんが
ブルルルル」はい。こちら黄泉川じゃん」

「はじめまして、かな？アレイスター・クロウリーだ。いや、学園
都市総括理事長と言ったほうがいいかな？」

「はい。それで何のようじゃん？」

「ちよつとそこにいる侵入者？に変わって欲しい」

「わかったじゃん」

「学園都市総括理事長から話があるそうじゃん」

「わかりました。お電話変わりました」

「すまない。ちよつと第7学区の窓のないビルの私の部屋に来て欲
しい」

「わかりました」ピッ

「で、どんな話だったじゃん？」

「第7学区の窓のないビルに来て欲しいと言われました」

「わかったじゃん。案内するじゃん」

「ここが窓のないビルじゃん。私はパトロールがあるからもう行く
じゃん」

「あ、はい。お手数掛けました」

「きにするなじゃん」

「えゝつと貴方がアレイスターの言ってた人？」

「はい、そうです」

「わかったわ。じゃあね」

ピュン

「きたか」

「はい」

「君は異世界から来たみたいだ」

「やっぱりそうですか・・・」

「まあいい。とりあえずどんな世界だったか教えてくれ」

「ええ、分かりました。簡単に説明すると、超能力が有り、エスパ
ーとノーマルが対立しているところがある世界です」

「なるほど・・・」

「え？超能力のこと信じられるんですか？」

「信じるも何もこの世界にもある」

「あ、そうなんですか」

「まあいい。あの3人には、常盤台中学に入学してもらうのが構わな
いか？」

「あの子達がいって言」「いいよ」「」ということですの
でお願いします」

「わかった。君たち5人には今から身体検査システムスキャンをしてもらうのが構わな
いか？」

「構いません」

「じゃあ、常盤台中学への連絡は私からしておく」

「わかりました。」

「後、学園都市が経営しているマンション2部屋を無償で貸し出そ
う」

「」「」「ありがとうございます」「」「」

「場所は第7学区の*****だ」

「ありがとうございます」

「行ってきます」

常盤台中学

「えゝつとあなたたちが転校生？」

「」「はい」「」

「じゃあな、俺たちは帰ってるから。後多分学生寮に入ることにな
ると思うからな。あ、そうそうリミッター解除しとくから、能力の
暴走は起こらないだろうしな。」

「じゃあ俺たちは帰るからな」

「わかった皆元一（さん・はん）」

「あ、待つて。一応あなたたちもシステムスキャンを受けてくれって総括理事長から言われてるから、システムスキャンして行って」
「わかりました」

皆本 光一

アンチエスパー・アンチアンチエスパー
レベル5第3位

賢木 修二

接触感应能力者&サイコネシスの変形発動
レベル5第3位

明石 薫

念動能力者
レベル5第3位

野上 葵

瞬間移動能力者
レベル5第3位

三宮 紫穂

接触感应能力者
レベル5第3位

プロローグ（後書き）

柵川中学から常盤台中学に変更しました W

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2699w/>

絶対可憐チルドレン×とある魔術の禁書目録

2011年10月9日15時29分発行